

# 電子版センターだより

Gunma Prefectural Education Center  
群馬県総合教育センター



- No16 -

平成29年3月7日(火)配信

## <掲載内容>

	頁
1 平成29年度の新規研修講座紹介	1
2 ぐんま教育フェスタの紹介	2
3 第14回ぐんま教育賞 入賞者の決定	5
4 教育研修員研修「長期研修員」の紹介	6
5 いじめ防止の取組への支援	7
6 教育の情報化への支援	8
7 保育アドバイザーの派遣	9
8 不登校対策の取組	10
9 子どもの実態に合わせた支援の工夫	11
10 総合教育センターへ来所される方へ	12

\* 編集後記 \*

# 平成29年度の新規研修講座紹介

## ～ 7つの研修講座の概要について ～

国や県の動向、喫緊の教育課題などを踏まえて、来年度新たに7つの研修講座を開設し、ライフステージや職に応じた教職員の資質向上を図ります。

### 1 基幹研修

小・中学校の2年目の教員の多くは、小学校では教科指導に、中学校では生徒指導や学級経営に対して不安や悩みを抱えています。また、2年目の高校教員の多くはHR担任を受け持つことになり、学級経営や保護者対応などに課題を感じています。6年目の高校教員においては、2校目への異動に伴い新たな課題が生じることがあります。こうした背景を踏まえ、基幹研修において、小・中・高等学校の2年目経験者研修及び高等学校6年目経験者研修等を新設します。

#### ・小・中学校2年目経験者研修

2年目の教員として必要な教科指導力や学級経営力等の実践的な指導力の向上を図ります。

#### ・高校2年目経験者研修

2年目の教員として求められる、基礎的な学級経営力の育成及び教科指導力の向上を図ります。

#### ・高校6年目経験者研修

組織の一員としての自覚を深めるとともに、自己課題の設定と解決、教科指導、進路指導、生徒指導等の専門性を高めることを通して、実践的指導力の向上を図ります。

#### ・高校実習教員6年目経験者研修

組織の一員としての自覚を深めるとともに、教科指導に関連した諸課題への対応力を高め、専門教科の実習担当教員としての実践的指導力の向上を図ります。

### 2 指定研修

小学校における英語教育の早期化・教科化、中・高等学校における英語教育の高度化などを踏まえ、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の充実に向けた研修を新設します。

#### ・高校英語科教員指導力向上研修

英語運用能力及び教科指導力の向上を図るため、授業ですぐに生かせる4技能の指導方法について学びます。

### 3 希望研修

英語教育の充実に向けた研修を、希望研修でも新設します。また、小・中学校の臨時的任用教職員に対しては、学習指導や生徒指導等の課題を解決するための研修を新設します。

#### ・英語科授業づくり研修講座

児童・生徒が主体となる英語科授業づくりのヒントを得ます。

#### ・小・中学校臨時的任用教職員研修講座

服務や学習指導・生徒指導等に関する基礎的・基本的な事項への理解を深め、教員としての使命を自覚するとともに、実践的指導力の向上を図ります。



※研修の詳細については、3月末に配布する講座案内及び総合教育センターWebページをご覧ください。

[ [http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page\\_id=191](http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=191) ]

## ぐんま教育フェスタの紹介 ～ 共に学び 未来を創る ぐんまの子ども ～

平成29年2月4日(土)、学校関係者及び一般県民を対象に「ぐんま教育フェスタ」を開催しました。今年度はテーマを「共に学び 未来を創る ぐんまの子ども」として、特別企画や研究発表等を行いました。教育フェスタ当日の様子を紹介します。

### オープニング及びぐんま教育賞表彰式

今年度も、オープニングの後、ぐんま教育賞表彰式を行いました。群馬県議会文教警察常任委員会委員、群馬県議会議員、教育賞選考委員をはじめ、多くの方を来賓として迎え、盛大に行われました。



オープニング

### 特別企画

- 特別講演「グローバルな舞台に必要な力」 講師 明石塾塾長 明石 康 氏
- パネルディスカッション

国際連合事務次長、群馬県立女子大学外国語教育研究所長を歴任され、現在明石塾塾長としてご活躍されている明石先生より、「グローバルな舞台に必要な力」と題して、これからの時代を心豊かによりよく生きようとする子どもたちに必要な資質・能力についてお話をいただきました。

パネルディスカッションでは、明石先生のご講演を受け、パネリストとして明石塾生である高校生3名、太田市立旭中学校より2名の生徒を加え意見交流が行われました。

#### ■特別講演

変化の激しい社会状況にあって、真のグローバルイズムとは何かという問いに向き合っていく大切さをお話いただきました。また、子どもたちの育成にあたっては、一人一人が自他の考え方や文化の異同を尊重しつつ話し合い、豊かな人間性を育むことのできる場を提供していくべき、との大きな指針をいただきました。



特別講演

#### ■パネルディスカッション

明石塾生が1年間の活動を紹介しつつ、自らの言葉で、広い視野を持って自分と異なる考え方・文化から学ぶことの大切さを語りました。中学生もそれを受けて、自分の将来の夢も、世界に目を向けてみると今までより広がったものになりそうだと発言しました。明石先生からは、共生をキーワードに、自らの考えを恐れず表現し他者と関わってみると良いといったご助言をいただきました。



パネルディスカッション

### ～参加者の声～

- ・教育に携わる者が、将来どのような子どもを育てていかなければならないかについて考えさせられました。
- ・明石塾の生徒の体験談や物事を客観的に捉えようとする姿勢も新鮮でした。また聞いてみたいです。



## 研究発表・研究概要展示

研究員、長期研修員、長期社会体験研修員の研究発表と、特別研修員の研究概要展示を行いました。



研究員



長期研修員



長期社会体験研修員

### ～参加者の声～

- ・短時間で要点が具体的に理解できて良かったです。掲示も工夫されていて、配布物もカラーで参考になるものばかりでした。
- ・どれも汎用的な内容で使いやすかったです。
- ・資料は良くまとまっていて、1年の成果が表現されていた。すばらしいと思いました。



特別研修員

## 英語教育改革公開授業

英語カリキュラム開発チームによる英語教育の早期化を踏まえた小学校外国語活動の授業（協力校：太田市立旭小学校）と、小・中学校の接続を意識した中学校英語の授業（協力校：太田市立旭中学校）を行いました。

### ■外国語活動（協力校：太田市立旭小学校）

単元名「ミックスジュースを作ろう」

本時のねらい：好きな果物やそうでない果物について尋ねたり答えたりして、友だちと交流を楽しむ。

ペアになり、互いに友だちの好きな果物の組み合わせを考えます。ホワイトボードにその果物カードを貼り、Do you like “strawberry” “peach” juice? などと尋ねます。英語を使って関わる楽しさを感じながら、交流しました。



外国語活動(太田市立旭小学校)

### ■英語（協力校：太田市立旭中学校）

単元名「A New Year's Visit」

本時のねらい：絵の人物になりきり、その状況について相手意識を持って伝えたり、また尋ねたりすることができる。

絵カードを受け取り、絵の人物になりきってペアで自分の考えたことを伝えたり、尋ねたりしました。What are you doing? I'm eating lunch. Where are you? With who?などの既習表現を活用したやり取りをしました。



英語(太田市立旭中学校)

### ～参観者の声～

- ・公開授業はとてもすばらしいと思いました。リフレクションシートやワークシートの活用がとても参考になりました。
- ・提案性のある授業を見させていただきありがとうございました。

**参加者体験・展示（幼児教育）**

幼児教育では、「豊かな心を育む ものがたりの世界」をテーマに、絵本の展示と紹介、県立土屋文明記念文学館移動展「紙芝居展」を行いました。また、「紙芝居のたね」代表の水出真弓氏と岡部千尋氏を講師に招き、紙芝居ワークショップ行いました。



絵本の展示と紹介



紙芝居展



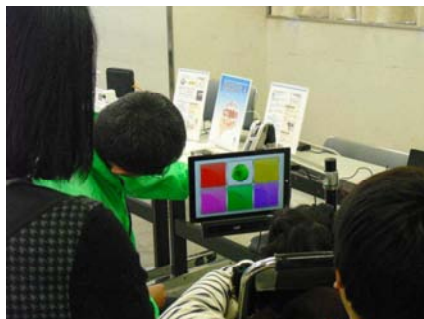
紙芝居ワークショップ

**■紙芝居ワークショップ**

サロンにおいて、40名以上の方々が参加してください紙芝居ワークショップを開催しました。紙芝居の歴史について岡部先生に講義していただいた後、水出先生、岡部先生による紙芝居の実演、上演の際のコツを伝授していただきました。その後、二つのグループに分かれて参加者が実際に紙芝居を演じ、講師からアドバイスをもらいました。参加者からは「すぐに役立つコツを教わってよかった」「紙芝居を演じてみたくなった」等の声が聞かれました。

**展示・販売（特別支援教育）**

特別支援教育では、国立特別支援教育総合研究所主催による特別支援教育教材・支援機器等の展示会、特別支援学校の作業学習製品の販売を行いました。



特別支援教育教材・支援機器等展示



特別支援教育教材・支援機器等展示



特別支援学校の作業学習製品販売

**展示（他）**

「いじめ防止フォーラム」では、平成28年度の活動内容等をパネル展示しました。「校旗を作ろうプロジェクト」では、参加校の取組と校旗を展示しました。「統計グラフ群馬県コンクール」では、上位の30作品を展示しました。



いじめ防止フォーラム活動紹介



校旗を作ろうプロジェクト紹介



統計グラフ群馬コンクール作品展示



## 第14回ぐんま教育賞 入賞者の決定

本年度は「みやま未来賞（県民の部）」165編、「杉の子賞（教職員の部）」21編、合計186編の応募がありました。その中から、最優秀作品をはじめ優秀賞、奨励賞が決定しました。各部門の最優秀作品の概要を紹介します。

### 1 みやま未来賞（県民の部）最優秀賞

#### 「楽しく学びがいのある小学校英語学習

－他教科や領域との合科的な指導の工夫を通して－

岩崎 夏子（群馬大学）

##### 〈概要〉

グローバル化に伴ってますます注目をあびる小学校英語科学習において、合科的な学習によって、英語の学習を他教科や領域の学習と関連させて、より充実させるというアイデアを考えた。小学校3年生では、算数と融合して、大きい数の計算を利用した買い物活動を英語で行ったり、小学校6年生では、総合的な学習の時間と融合して、英語で地域紹介を行ったりする活動を提案した。



表彰式の様子

### 2 杉の子賞（教職員の部）最優秀賞

#### 「ふるさとを誇りに思う生徒を育てる教育課程の創造

～伊勢崎銘仙によるふるさと学習の実践とその成果～

大栗 和美（太田市立南中学校・前伊勢崎市立境北中学校）

##### 〈概要〉

伊勢崎市ふるさと学習を伊勢崎銘仙を軸に実践した。銘仙の価値や地元で生きてきた人々の姿に感動し、それを教材化して生徒に託した。家庭科教諭と実践した授業を火種に、生徒自らが「銘仙ひろめ隊」となって探究活動に取り組み、文化祭で発信することをプロデュースした。これら一連の取組から、学校を活性化させる新たな教育課程を創造できた。そして、ふるさとを愛し、誇りに思う生徒の育成につなげることができた。



表彰式の様子

他の入賞者は以下のとおりです。（敬称略）

	みやま未来賞	杉の子賞（所属）
優秀賞	染谷 麻里	多胡 宏（県立盲学校）
	高橋 果歩	
奨励賞	原島 愛隣	長沼 明典（伊勢崎市立あずま小学校）
	小河原 祥	池田 瑞輝（伊勢崎市立第三中学校）
	中嶋さなえ	関口 智子（前橋市立桂萱小学校）
		大津 幸信（県立大泉高等学校）

※入賞作品の詳細は、総合教育センターWebページにて主題及び作品全文を公開しています。ご覧ください。

[ [http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page\\_id=183](http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=183) ]

## 教育研修員研修「長期研修員」の紹介 ～ アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善の推進 ～

「本県高校教育の改善」をテーマとした長期研修が本年度より始まりました。今年度は、新井裕之研修員（県立前橋高校教諭）と坂爪誠研修員（県立高崎高校教諭）が、「**アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善の推進**」のインプットとアウトプットを重点的な研究課題として、研修を進めてきました。

### ○● インプット ○●

#### 「国や県内外の教育の動向や現状を知る」

指導主事連絡協議会や講習・研修（統計指導者、言語活動指導者養成）、県教育委員会による各種研究協議会や委員会などに出席し、国や県内外の教育の動向を把握しました。



アンケートを集計する研修員

1都3県（東京、埼玉、神奈川県、千葉）の10校（都立の西、日比谷、県立の浦和、大宮、湘南、横浜翠嵐、川和、柏陽、千葉、船橋）の県外先進校視察、県内中等教育学校と高校（四ツ葉学園、県立前橋、前橋女子、高崎、高崎女子）への訪問とアンケート「アクティブ・ラーニングと大学入試改革に関する意識調査」（県内14校・県外2校対象）の実施により、授業改善の取組状況や必要意識、授業実践上の悩み・妨げなど、先生方の教科指導の現状理解を進めました。



視察した都立日比谷高校



県立沼田高校職員研修での説明

### ◇◆ アウトプット ◇◆

#### 「研修で得たことや提案を県内高校へ伝える」

視察やアンケートで得られた成果を、授業改善への具体的提案とともに各種研究協議会（校長、副校長・教頭、教務主任）や研修会（ぐんま高校生ステップアップサポート事業コーディネーター）などで発表しました。ほかに県内高校（沼田、富岡東）の校内研修にも講師として参加し、先生方と教育の今後や授業改善の方法について一緒に考えました。

また、協議会参加や視察で得られた情報は、「ぐんま高校授業改善新聞」を発行（年15回16号・メール送信）しました。こうして県内20校約850人の先生方と情報の共有や意見の交流を図りました。



「ぐんま高校授業改善新聞」の発行

今後は研修で得られたことを土台として、個人の視点からは一層の授業改善、全体の視点からは学校組織の活性化を目指して指導に携わりたいと考えています。

※内容の詳細は、総合教育センターのWebページにて公開します。ご覧ください。

## いじめ防止の取組への支援 ～ 「いじめ防止研修講座」等 ～

いじめの問題を未然防止するためには、各学校において全職員の共通理解の下、いじめの防止に向けた体制を構築することや、児童生徒自身がいじめの問題を自分たちの問題として受け止め、自分たちでできることを主体的に考えて行動できるよう働きかけていくことが大切です。

総合教育センターでは、いじめ防止に向けた実践的指導力の向上を図ることを目的として、希望研修「いじめ防止研修講座」を開催しました。いじめの問題の現状や解決に向けた取組について、講演や協議を通して学ぶとともに、具体的事例を基に適切な対応等について研修しました。

### 1 研修内容

#### 講演「ネットいじめの現状と防止に向けた啓発活動」

講師：群馬県子ども未来部子育て・青少年課 主任 塚家 隆雄 氏

ネットいじめの対応では、携帯やスマホを利用する上での注意点やトラブルへの対処方法等について学ぶことができ、児童生徒への指導のポイントや伝えるべきことが分かったり、保護者への啓発に役立てたりすることができる内容でした。いじめをしてはいけない理由や犯罪と結び付くこと等について、実際の事例を挙げて説明していただき、受講者から、「リアリティーのある話や対応策を聞いて、とても具体的で分かりやすく、参考になった」という感想がありました。

また、セーフネット標語「おぜのかみさま」（群馬県・群馬県警察）についての説明も、一つ一つ理由まで丁寧に話していただき、児童生徒への効果的な指導に生かすことができるものとなりました。



セーフネット標語「おぜのかみさま」は、群馬県の小中学生に親しみのある「尾瀬」をモチーフに、ぐんまちゃんを使ったイメージキャラクター“おぜのかみさま”を作成し、分かりやすい標語で先生方が子どもたちを効果的に指導できるよう応援するために作成されたものです。子どもたちをネット犯罪やトラブルから守ろうという願いが込められており、おぜのかみさまのアニメーションや幼児向けの紙芝居も作られているので、授業や研修等で活用できるようになっています。

#### ※資料「セーフネット標語おぜのかみさま」の掲載場所

群馬県Webページ（子育て・教育文化・スポーツ）：<http://www.pref.gunma.jp/03/c2900046.html>

#### 実践発表・協議「自校のいじめの問題に対する取組について」

実践発表者：前橋市立桂萱中学校 岡崎 高峰 教諭  
藤岡市立東中学校 浅見 俊之 教諭  
県立館林高等学校 細堀 和弘 教諭

小・中・高等学校のそれぞれにおけるいじめの未然防止の効果的な取組や、早期発見・早期解消に向けた組織的な対応について知り、そのことについて協議をしました。受講者から、「具体的な実践例を知ることができて良かった」「主体的な取り組みを進める上でとても参考になった」等の感想が聞かれ、自校のいじめ防止対策に生かすことができる研修となりました。



### 2 来年度へ向けて

来年度も希望研修「いじめ防止研修講座」を開催します。講義「学校で機能するいじめ問題の組織的対応」や講義・協議「学校・学級で生かせるいじめ問題の組織的対応」を通して、学校や学級で生かすための組織的な対応のポイントをつかみ、実践的な指導に役立てることができる内容を予定しています。詳しくは年度末に配布される研修講座案内をご覧になり、お申し込みください。

また、研修支援隊では、今年度も校内研修や生徒指導部会等に指導主事が出向き、講義や演習を行いました。いじめの対応等に関する研修を、学校の実態に応じて支援します。是非ご活用ください。



## 教育の情報化への支援

国の第2期教育振興基本計画において、ICTの積極的な活用の推進が求められています。群馬県においても、発展的な教育により社会へ参画する力を育成するために、情報通信技術（ICT）活用能力と情報モラルの育成が求められています。総合教育センターでは、各種研修講座および研修支援により学校における「教育の情報化」の推進を図っています。

### 1 研修講座について

研修講座では、指定研修として「携帯・インターネット問題対策研修」「新任情報主任研修」、希望研修として「共通教科情報研修」「ICT活用力向上研修」を実施しています。来年度においても更に内容を充実させて同様の研修を実施する予定です。

#### ○携帯・インターネット問題対策研修

平成28・29年度の2年間で県内全ての学校を対象に、情報モラルの新たな問題の一つである「ネット依存」について取り上げ、その対応に向けた研修を実施しています。

ネット依存の現状と未然防止・早期解決に向けた取組についての専門家の講演（1日目）や、自校における情報モラル対策についての協議（2日目）など、学校現場ですぐに役立つ講演・協議を行いました。



自校の事例についての協議

#### ○ICT活用力向上研修

夏季休業中に実施した最新のタブレット端末等を活用したICT活用力向上研修講座は大勢の方に受講いただきました。その中でも「ゼロから始めるタブレット端末コース2（iOSタブレット）」は希望者が多く、受講者を抽選で決めることになってしまいました。来年度は、このコースの受講日数を4日（半日ずつ）に増やします。また、来年度は各コースに、県内でタブレット端末等を先進的に活用されている現場の先生を講師に招いて事例紹介をしていただきます。

タブレット端末の台数の関係で、全てのコースで参加人数の制限がありますが、興味のある方は是非、申込みください。

コース	人数
ゼロから始めるタブレット端末コース1 (Windowsタブレット)	30人
ゼロから始めるタブレット端末コース2 (iOSタブレット)	9人
タブレット端末活用実践コース（小・中・中等前期編）	20人
タブレット端末活用実践コース（高校・中等後期編）	20人

※内容の詳細は、年度末に配布される研修講座案内をご覧ください。



模擬授業形式の協議

### 2 研修支援隊について

研修支援では、各学校園の要望に応じて、総合教育センターの指導主事が訪問し、「ICT活用」「CMSによるWebページ、グループウェアの活用」「情報モラル」などの研修を支援しています。

ICT活用では、各学校に出向いての職員研修だけでなく、教育センターのコンピュータ室を利用した研修会も行っています。情報モラル研修では、保護者会等での研修会にも対応をしています。



ICT活用の職員研修

※内容の詳細は、総合教育センターWebページをご覧ください。

[ [http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page\\_id=68](http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=68) ]

## 保育アドバイザーの派遣 ～ 各種研修会や講演会の取組から ～

幼児教育センターでは、幼児教育や家庭教育を支援するため、教育や保育の専門家で経験、知識とも豊富な12名の「保育アドバイザー」を、教職員の研修会、保護者や子育て支援者、児童生徒に向けた講演会等の講師として派遣しています。

### 1 平成28年度の保育アドバイザーの派遣先及び内容

(1) 教職員の研修（保育所・幼稚園・認定こども園等 県内33施設に派遣）

内 容	主 な テ ー マ
保育の基本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びを深めるための幼児理解と援助の在り方</li> <li>・子どもの心に寄り添う保育～保育者の専門性を高めるために～</li> <li>・保護者とのコミュニケーション</li> </ul>
実技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児に必要な運動遊び</li> <li>・絵本の読み聞かせと絵本の選び方</li> </ul>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な支援を要する幼児の理解と関わり方</li> <li>・発達につまずきのある子どもの対応と保護者支援</li> <li>・子どもの成長を促す保護者との関わり方</li> </ul>



(2) 保護者・子育て支援者等対象の講座（幼稚園・保育所・認定こども園・小学校等 県内63施設に派遣）

内 容	主 な テ ー マ
家庭教育	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・子どもが育つために大事なこと</li> <li style="width: 50%;">・子育てのヒント</li> <li style="width: 50%;">・子どもを伸ばす褒め方・しかり方</li> <li style="width: 50%;">・がまんする力を育てる</li> <li style="width: 50%;">・親子のふれあいの大切さ</li> <li style="width: 50%;">・食育について</li> </ul>
実技	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本で知る子育ての知恵</li> <li>・体を使った親子遊び</li> </ul>
遊びや発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あかちゃん体操と発達</li> <li>・手遊びについて</li> </ul>
幼小接続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学までに身に付けておきたい力</li> <li>・小学校入学に向けて～今子育てに大切なこと～</li> </ul>
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に寄り添う子育て支援</li> <li>・子育て支援の現状と課題</li> </ul>

(3) 高校生対象の講演会（県内1校に派遣）

内 容	主 な テ ー マ
家庭教育	“いのち”のはなし～将来お父さんお母さんになるみなさんへ～

### 2 保育アドバイザー派遣の申込について

幼児教育センターでは、今後も保育アドバイザーを原則無料で派遣し、幼児教育・保育の支援、家庭教育支援に役立てていただきたいと考えています。まずは、お電話でご相談下さい。

- 【申込方法】**
- ①まずは 希望の日時や内容、講師など電話で相談  
T E L 0270-26-9203（幼児教育センター直通）
  - ②講師決定後 派遣依頼書をメールまたはF A Xで提出
  - ③派遣終了後 実施報告書をメールまたはF A Xで提出



※内容の詳細は、総合教育センターW e b ページをご覧ください。

[ [http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page\\_id=74](http://www.nc.center.gsn.ed.jp/?page_id=74) ]

## 不登校対策の取組

### ～ 自立支援アドバイザーの活動の様子から ～

総合教育センターでは、「フリースクール等で学ぶ不登校児童生徒への支援モデル事業（文部科学省いじめ対策・不登校支援等推進事業）」として、今年度、臨床心理士2名、社会福祉士2名を「自立支援アドバイザー」として委嘱しました。自立支援アドバイザーが県内に34箇所ある適応指導教室を訪問し、活動の様子を参観したり事例検討会や研修会に参加したりしながら支援を行ってきました。

本年度の自立支援アドバイザーの活動の様子を紹介します。

#### 1 自立支援アドバイザーの取組

##### (1) 県内適応指導教室への訪問

自立支援アドバイザーが、適応指導教室を設置している全ての市町村を訪問し、児童生徒の様子を参観したり、一緒に活動を行ったりする中で、指導員が日常の指導で悩んでいることに対して支援を行いました。また、必要に応じて、保護者や児童生徒への面接を行い、学校で実施された事例検討会にも参加しました。参加者からは、「適切な助言を受けて、児童生徒への具体的な関わり方が分かった」などの感想が寄せられました。



事例検討会の様子

##### (2) 適応指導教室の指導員への研修

日頃、指導員が課題と感じている、保護者の生活習慣の改善、児童生徒の発達段階における効果的な関わり方、心理や福祉の面からの理解の仕方について、自立支援アドバイザーが専門性を生かし、研修を行いました。また、8月には「適応指導に関わる指導者講習会」を実施し、分科会において助言を行いました。

##### (3) 保護者会における助言及び、講演会の実施

自立支援アドバイザーが講師として参加した保護者会では、保護者から、「どのように子どもと関わったらよいか」といった質問が、たくさん出され、有意義な時間を過ごすことができました。

適応指導教室の指導員、学校関係者、保護者、地域の方を対象にした講演会では、社会福祉士の資格を持つ自立支援アドバイザーが講師となりました。参加者からは「不登校児童生徒の気持ちや、社会的な自立に向けた具体的な支援等についての理解が深まった」という感想が寄せられました。



講演会の様子

#### 2 今後の取組として

今後も、児童生徒の健全育成や効果的な保護者支援に向けて、今年度の自立支援アドバイザーの活動の成果を生かしていきたいと考えます。

適応指導教室では、児童生徒の学校復帰や社会的な自立に向けて様々な取組が行われています。児童生徒が抱える課題に対し、学校が中心となり、適応指導教室や地域の関係機関等と連携していくことが、有効な支援につながると考えます。

総合教育センターでは、不登校対策の充実にに向けて、今後も様々な悩みを抱える児童生徒や保護者への支援を行っていきます。

問い合わせ先：子ども教育相談室

0270-26-9200（電話相談専用）



## 子どもの実態に合わせた支援の工夫 ～ 特別支援教育教材・支援機器等展示会より ～

特別支援教育では、子ども一人一人の発達の状態や障害の特性が異なるため、個に応じた適切な指導目標や内容の設定、支援が必要となります。目標を達成するためには、日頃から子どもの実態に合わせた教材・教具の工夫と開発をしていかなければなりません。

国立特別支援教育総合研究所は、障害のある子どもの教育に関する研究、研修・支援、情報普及などを行う国の組織です。今回ぐんま教育フェスタにおいて、同研究所の御協力で、特別支援教育教材・支援機器等展示会が行われ、約 170名の来場者がありました。ここでは、その様子を紹介します。

### 1 支援機器の展示ブース

- ・身の周りの雑音を遮り相手の声だけを聞きやすくする補聴器具
- ・体の稼働に合わせて形や大きさを変えて作られたスイッチ教材
- ・教科書などの文字情報を手軽に読み取って音声出力する機器
- ・ディスプレイに映し出された問題を視線入力で答える機器 など

以上のような数多くの支援機器の展示がありました。研究所の方々から一つ一つ丁寧に支援機器の説明を受けたり、直接触って使いやすさを体験してみたりすることができました。来場された方の中には、実際にこれらの支援機器を工夫して作成し、指導に生かしている先生もおり、更なる指導の改善を図る手立てはないかと積極的に質問や相談をしている姿が見られました。

同研究所の特別支援教育教材ポータルサイト (<http://kyozai.nise.go.jp>) では、たくさんの教材や支援機器、学校での実践事例が紹介されています。実践事例をヒントに、担当している子どもの実態にあった教材・教具の開発を進めていきましょう。



最新のICT技術を活用した支援機器

### 2 発達障害に関わる展示ブース



障害に応じて工夫された学習教材

同研究所の中にある発達障害教育情報センターでは、発達障害のある子どもの教育の推進・充実に向けて、発達障害に関わる教員及び保護者をはじめとする関係者への支援や国民に広く理解を深めるために、情報提供や理解啓発活動を行っています。

今回の展示会では、紙を押さえたり、鉛筆を握ったりするといった、授業中であると活動しやすくなる補助器具、教科書に書かれている文字を目で追いやすくなるシート、発達障害のある子どもの指導に役立つ学習プリントなどを展示いただきました。来場された先生方は、発達障害を理解して、指導していくためのポイントを教えていただいたり、どのような補助器具があると活動しやすくなるのか、実際に使って効果を確認したりしていました。

### 3 来年度の研修の中で

展示会で紹介いただいた教材・支援機器等は、来年度の研修講座の中でも紹介していく予定です。特別支援学校初任者研修では、障害のある子どもの教材・教具の工夫についての講義を、3年目・5年目経験者研修では、ICT機器の講義・演習を、5年目経験者研修では、さらに一步進めて自作教材を用いた実践発表・協議を計画しています。また、希望研修として「特別支援教育充実研修講座」において、知的障害特別支援学級と自閉症・情緒障害特別支援学級における教材・教具の工夫を研修内容として取り上げていきます。

特別支援研究係では、鉛筆の持ち方をサポートするリング、使いやすいハサミやコンパス、すべり止めのある定規やマット、読み書きを支援する罫線プレート、目盛りに触れて確認できる触読物差など、いくつかの補助器具を保有しています。関心のある方は、研修の際にお声がけください。

### ○今後の工事について

- ・ 県有施設最適化事業に伴い、平成29年度末に、伊勢崎合同庁舎が移転してくるため、3月から5月にかけて、本館4階、6階に多目的室を設置する工事があります。  
また、平成29年度中には講堂棟、体育研修棟の改修工事を行う予定です。

工事により研修等に御迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、御理解・御協力のほどよろしくお願いします。

### \* 編集後記 \*

総合教育センターのぐんま教育フェスタも今年で16年目を迎えました。土曜日の開催にもかかわらず、参加者 750人を超える盛大な催しとなりました。特に、特別企画のパネルディスカッションでは、パネリストである明石塾の塾生や旭中学校の生徒が、それぞれの経験を基に「グローバルな舞台に必要な力」について真剣に討論している様子から、激動する国際社会の中で、日本の明るい将来の展望が垣間見えました。

来年度も、幼児・児童・生徒の「生きる力」の育成に向けて教職員の資質向上を図るため、研修講座をはじめ各種事業の改善・充実に取り組んでいきます。各経験段階（初任、中堅、経験豊か）に応じた連続性のある研修や、今日的な課題に対応した研修を通して、共に学び未来を創る群馬の子どもたちを育てていきたいと思えます。

平成29年度もよろしくお願いいたします。

（文：M・R）